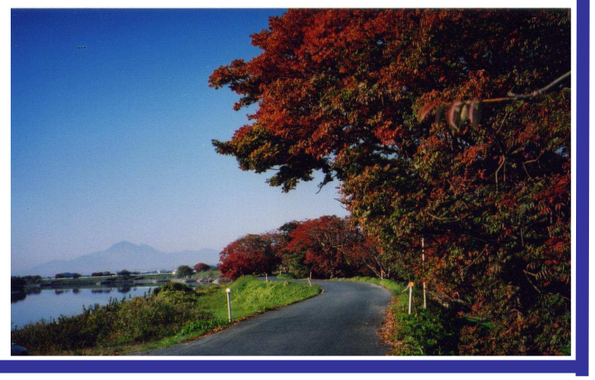
祝 菊池川流域日本遺産認定

今年の４月、菊池川流域（玉名市・和水町・山鹿市・菊池市・熊本県で協議会を構成）が「日本遺産」に認定されました。「日本遺産」とは、文化庁が平成２７年度に創設した制度で、日本の歴史・文化・伝統を物語るストーリーを「日本遺産」として認定し、国内外にアピールし、観光や地域活性化につなげていこうというものです。これまで５４地域が認定されています。

９月 23 日、山鹿市で今年度の熊本県文化財保護大会が開催され、このなかで「日本遺産の今後の活用について」と題したパネルディスカッションに、NPO 法人高瀬蔵理事の肩書きでパネリストとして参加させていただきました。 菊池川流域日本遺産の中での高瀬と高瀬蔵について、短い時間でしたがお話をしてきました。閉会後、高瀬蔵の活動に興味を示して挨拶に来られた人もあり、これからも機会あるごとに高瀬蔵を PR しなくてはと思ったところです。

この日本遺産認定を追い風にして、地域の皆さんと一緒に高瀬と高瀬蔵を盛り上げて行きたいと思います。会員皆様のご参加と応援をお願いします。 （清水）



「高瀬蔵ガラクタ市」商品提供のお願い

恒例となりました「高瀬蔵ガラクタ市」。今年度も１月の開催を予定しています。
毎年楽しみにしていただいているお客様もおられます。商品もお客様の品定め次第で一体何が売れるやら、こんなものも売れたとびっくりすることも。
皆様のご家庭に眠っている贈答品やいらなくなった物の提供をよろしくお願いします！

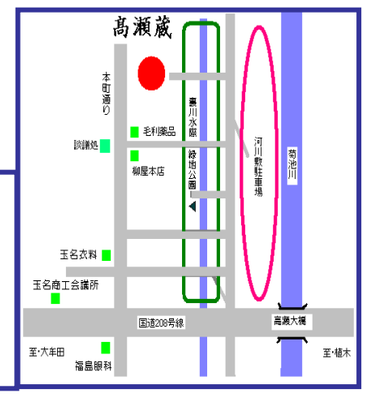
会員拡大のお願い

日頃より会員の皆様方にはＮＰＯ法人高瀬蔵の事業運営につきまして、ご支援とご協力をいただき有難く感謝申し上げます。本年で開館 12 年となりますが、年を経るごとに会員やスタッフの減少が懸念されるところです。つきましては、会員の皆さまより新規会員やボランティアスラッフの方のお誘いを頂きますようお願いしたします。 （事務局）

高瀬蔵

NPO 法人 高瀬蔵

熊本県玉名市高瀬 155-1（〒865-0025）
TEL・FAX　0968-72-2480
E-MAIL　takasegura@aria.ocn.ne.jp
URL http://www.tamana-cci.or.jp/NPO/indexf.html
開館時間　10:00～24:00（イベント開始時間により変更あり）

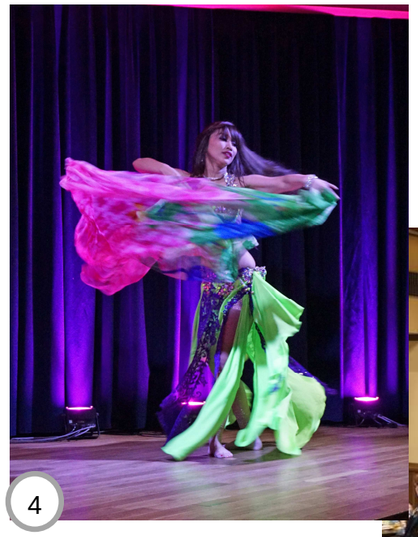


高瀬蔵

高瀬！くらしの文化継承と創造拠点

NPO 法人高瀬蔵（平成 29 年 10 月 10 日発行）
会報　Vol.47

今年度、こんな自主事業を開催しています!



８月２４日　**高瀬蔵納涼ビールまつり！** を開催しました。（写真④⑤）

特別な暑さだったこの夏の締めくくりに高瀬蔵のビールまつり！　お客様の入りを心配していましたが、開場とともに次々に席が埋まり、冷たいビールとケータリングのおつまみのかずかず。原さんオリジナルのソーセージアラカルトなどでホールいっぱいにビアホールの雰囲気が

ゲストは昨年も好評だったベリーダンスの春奈さんにトラさんを加え、さらにバージョンアップしてホールの中は大盛り上がり！お客様の楽しそうな様子に高瀬蔵ならではの楽しいイベントを来年もやろうね！とスタッフ一同満足な一夜でした。 （猿渡）

高瀬界隈巷間噺　高瀬にまつわるあんな話こんな話

第２話　　８月９日、「1877 西南戦争 140 年～玉名郡高瀬攻防戦を巡る被害と補償」と題して、熊本県立くまもと文学・歴史館の青木勝士さんに話をしていただきました。

熊本県立図書館が所蔵する熊本県公文類纂(県政史料)には、明治６年(1873)から昭和１２年(1937)まで県が作成した行政文書と公記録類が残されています。この資料や当時の人々が残した日記などをもとに、西南戦争での戦線の状況と高瀬攻防戦、そして人的被害や家屋の被災など戦災保障の状況について解き明かしていきました。熊本城に火をつけたのは鎮台で、城下を焼き払う合図にまず天守に火をつけたとの見解。　高瀬のまちが焼き払われたのは、薩軍に迫られた歩兵 8 連隊(大阪)が逃げるために三池往還筋に火を放ったことによる。300 軒以上の家が焼けており、一軒当たりの補償は今の金額で 26 万円ほど。切り殺されても 36 万円程度などなど。もっとも、当時戦災補償があっただけでも驚きでした。中には戦災補償を求める当時の文書にでてくる人物の子孫もおられ、面白い内容に皆さん最後まで熱心に聴き入っていました。

第３話　　９月９日、NACS−J 自然観察指導員の酒井奈美さんによる「菊池川下流の生きものをみてみよう！」を開催しました。(表紙の写真③)

最初に高瀬蔵のホールで菊池川のことや歴史、生きもののことなどのお話を聴いた後、菊池川の河原で生きものを観察しました。まだまだ知らない菊池川のこと、海と行き来がしやすく、河畔に樹木があることなどで生物多様性が保たれていることなど、たくさん学ぶことができました。高瀬界隈ではあたり前にみかけるベンケイガニやトビハゼが絶滅が心配されているとのこと。ひさしぶりの河原は意外ときれいになっていて、ハヤやフナなど淡水の魚にテナガエビなどのほか、ボラやマハゼなど海の魚も見ることができました。また、生き物だけでなく土器なども拾うことができるなど、子どもも大人も楽しい時間を過ごしました。　　(竹田)

“小さなサーカス「ピエロック一座」がやってくる”

８月１９日、夏休み企画として、子供たちのためのイベントを開催しました。

第一部は、鹿北の山から切り出した木で“操り人形”をつくるワークショップ。ピエロック一座お二人の指導のもと、17 名の子ども達とその親御さん達でにぎやかな時間を共有することができました。地元の木を使って、自分で作ります。パーツの向きを間違えて、顔と体が反対になったり、オリジナルの飾り付けを考えたり、ギターを持たせたり、一人ひとり思い思いの人形が出来ました。最後は、自分で動かす発表会!! うれし恥ずかしい、楽しく、充実した時があっと言う間に過ぎていきました。(表紙の写真①)

第二部は、ピエロック一座さんによる、人形劇を開催。60 名に膨れ上がったお客様の前で、初めてお披露目するという新作人形劇を演じて頂きました。一座の真骨頂である、音楽と人形そして温かみのあるおしゃべりで、木の大切さ、山の大切さを、そして自分の周りの自然の大切さを、楽しく学びました。(表紙の写真②)

なごやかな笑いが高瀬蔵に響いた 1 日でした。徹夜で人形の材料を用意してだくさった一座のスズさん！新作を考えてくださった座長さん！ありがとうございました。　　(村田)

【高瀬職人塾】お菓子作りを伝授　講師　菊水堂 山嵜憲一さん

7 月 16 日(日)、『いきなり団子の作り方を伝授』を開きました。(写真上左)

です。以前は家庭のおやつだったいきなり団子は、今や人気商品で、多くの県外の業者も販売しています。そこで、熊本県の菓子工業組合では『いきなり団子』の商標登録を行っているそうです。

家庭での作り方のコツを知りたいと、熱意ある女性２１名が朝早くから集まり賑やかな教室となりました。

団子の生地(皮)はひと晩寝かせること(少なくとも１時間寝かせる)や 、小麦粉(薄力粉)や生餅粉はサックリ混ぜること、混ぜすぎると粘りが出すぎること、柔すぎる生地への小麦粉の加えかたなど、多くのポイントを伝授いただきました。　芋の上に餡(あん)を乗せてちょっと潰し、薄皮で包もうと悪戦苦闘して丸め、蒸し器で蒸して出来上がり。半透明の皮で美しく、美味しくできました。

アンケートには、「 いつも疑問に思っていたことやコツを教えていただき感謝します。もっともっとチャレンジします。」との言葉がありました。

9/10(日)は、『バターケーキの基本　パウンドケーキの作り方を伝授!』でした。(写真上右)

地域の行事が重なりキャンセルが少しありましたが、常連のメンバーに混じって、新聞や市の広報を見て初めての参加という方が多く来られました。遠くは松橋町から男性の参加がありました。

材料の混ぜ方のコツや、マーマレードジャムの塗り方、焼き上がりをひっくり返して、水分の蒸発を防ぎつつ表面を平らにすることや保存の仕方など、細かく丁寧に教えていただきました。

大きな型に入れて焼いたパウンドケーキの試食では、温かくふんわりした食感と美味しさを味わいました。バターの香りとともに、しっとりした甘くて柔らかなスポンジが口の中で溶けるようでした。　山嵜さんによると、パウンドケーキの美味しさは、冷めてから本当の美味しさが出てくるとのことでした。奥が深い!

「初めての参加でしたが、話術も巧みで楽しい講座でした。さすが職人というこだわりや、いろいろなコツを教えていただきありがとうございました。」「また参加したいと思います。」「人数がいつもより少なかったので、落ち着いて静かに参加できました。」という声がありました。　　(柴原)